

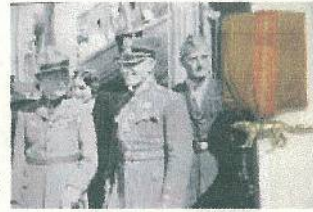
## 故人しのぶ写真を入手

2007年01月16日

朝日新聞の記事より

在米ラトビア人の遺品として贈られたボーイスカウトの勲章を今夏、母国ラトビアに返還する富士市吉原2丁目のスポーツ店経営川島泰彦さん(61)が、受章直後に撮影されたとみられる写真など、貴重な資料を入手した。

今年8月、川島さんはボーイスカウト発祥の地英国で開催される第21回世界ジャンボリーで勲章を返還するが「さらに足跡をたどりたい」と張り切っている。(洞口和夫)



ラジンさん(右端)、シルバーウルフ勲章を授与したベーデン・パウエル卿(左端)と返還される勲章。写真はTHE PINETREE WEBから

この勲章は、ベリザーズ・ラジンさんが33年に受章したボーイスカウトでは最高のシルバーウルフ章。長さ5.5センチで、英国のボーイスカウト連盟がスカウト運動貢献者に贈るため創設した。第1号は20年のスカウト運動創始者のベーデン・パウエル卿で、これまでに約300人が受章した。日本人は昭和天皇と佐野常羽伯爵の2人で、ラトビアではラジンさん一人だ。

ラジンさんは44年、ラトビアに侵攻した旧ソ連に抵抗して米国に亡命した。少年時代からスカウト活動続ける川島さんは68年、米国シアトル留学中にラジンさんと出会い、世話になった。73年、ラジンさんは68歳で死去。翌年、ラジンさんの妻からウルフ章を贈られた。

川島さんはラトビアでスカウト運動が復活したことを知り、今年英国で開かれるボーイスカウト創立100周年の世界ジャンボリーの席上、ラトビア側に返還することを決めた。そして、詳細がつかめなかったラジンさんについての情報を世界のボーイスカウト関係者らに呼びかけた。

今回、川島さんが入手した写真は33年8月18日に撮影された。ラトビアの首都リガの港で、29歳になったばかりのラジンさんが、パウエル卿から手渡されたウルフ章を胸につけている。米国デトロイトのダイニス・ルジデンスさんがミネソタのボーイスカウト関係者のホームページから見つけた、と知らせてくれた。

ルジデンスさんは「ラジンさんは35年ごろまでラトビアのボーイスカウトの指導的立場で、共和国最後の大統領の側近として4Hクラブ設立に貢献。米国では最後までYMCAで活動した」と足跡も伝えてくれた。

また、オーストラリアの知人はメルボルンの図書館で「ラトビアスカウティング40年誌(17~57年)」を見つけた。図書館から届いた本は、18年に北部の生誕地でスカウト隊を発足させるなどラジンさんの詳しい活動を紹介している。

川島さんは「音楽、文学など多くの話をしたが、ラジンさんは過去のことには触れなかった。いま少しずつ解明されている」と喜んでいる。